

米国 鉱工業生産のモメンタム加速 (07年 8 月 鉱工業生産)

発表日：2007年9月14日（金）

～製造業生産のモメンタムも強い～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

- 8月の鉱工業生産は前月比+0.2%と市場予想の同+0.3%を下回ったものの、5、6、7月合計で同0.3%上方改定されており実態は予想よりも強い内容。製造業、鉱業が減少したが、公益が大幅に増加した。製造業は、自動車がスト対応で増産した反動で減少、ハイテクが鈍化したことで前月比▲0.3%と減少した（5、6、7月合計で同0.4%上方改定）。
- 3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では鉱工業生産が+4.5%（前月+3.2%）と加速、製造業生産は+5.4%（前月+5.4%）と、製造業生産のモメンタムも強さを維持している。
- 稼働率は鉱工業が82.2%、製造業が80.4%とともに上昇し高い水準を維持していることから、今後の増産投資の増加に繋がろう。
- 今後、住宅投資の大幅な減少が続くもとでも、個人消費が底堅く推移、輸出の好調持続、設備投資の拡大、在庫の積み増しなどの需要を背景に年後半も生産は堅調さを維持しよう。

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

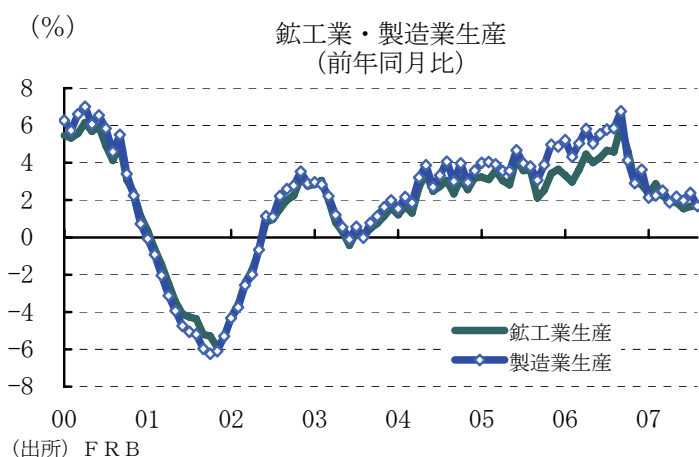
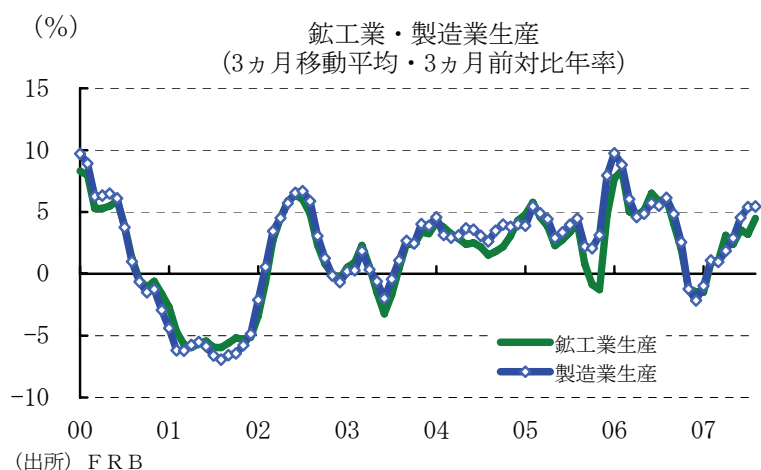
鉱工業生産			鉱工業生産（Industrial Production and Capacity Utilization）						設備稼働率	製造業（NAICS）	生産能力
			製造業（NAICS）	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連			
06/11	▲0.4	(+3.0)	▲0.2	▲0.2	▲2.7	+0.8	▲0.2	+3.5	+81.3	+79.5	+0.2
06/12	+0.6	(+2.8)	+1.2	+1.8	▲4.1	+1.1	+1.2	+1.7	+81.6	+80.3	+0.2
07/01	▲0.5	(+2.4)	▲0.7	▲2.3	+2.5	+0.6	▲1.0	▲5.9	+81.1	+79.6	+0.2
07/02	+0.8	(+2.9)	▲0.1	▲0.1	+8.6	+0.2	+0.0	+2.4	+81.6	+79.4	+0.2
07/03	▲0.1	(+2.2)	+0.7	+0.1	▲6.6	+1.3	+0.6	+0.6	+81.4	+79.8	+0.1
07/04	+0.6	(+1.9)	+0.4	▲0.0	+2.8	+1.4	+0.5	+1.4	+81.7	+79.9	+0.1
07/05	▲0.1	(+1.9)	+0.1	▲0.3	▲1.5	+0.9	▲0.1	▲0.5	+81.5	+79.9	+0.1
07/06	+0.6	(+1.5)	+0.7	+0.4	▲0.6	+2.5	+0.6	+2.6	+81.8	+80.3	+0.1
07/07	+0.5	(+1.7)	+0.8	+0.8	▲1.7	+3.3	+0.5	+0.7	+82.2	+80.8	+0.1
07/08	+0.2	(+1.7)	▲0.3	▲0.6	+5.3	+0.8	▲0.3	▲2.6	+82.2	+80.4	+0.1

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比 +0.2%と市場予想を下回るも過去の数字が上方改定

8月の鉱工業生産は前月比+0.2%と減速し市場予想の同+0.3%を下回ったものの、5、6、7月合計で同0.3%上方改定されており実態は予想よりも強い。製造業、鉱業が減少したが、公益が大幅に増加した。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+4.5%（前月+3.2%）とプラス幅を拡大した。製造業では、自動車がスト対応で増産した反動によって減少、ハイテクが鈍化したこと等で前月比▲0.3%減少した。しかし、5、6、7月合計で同0.4%上方改定され、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+5.4%（前月+5.4%）と、製造業生産のモメンタムは強い。



稼働率は高い水準に

稼働率は生産能力が前月比+0.1%と拡大したものの、生産が同+0.2%となったため82.2%（7月分は速報の81.9%から82.2%に上方改定）と前月と変わらずとなった。製造業稼働率は80.7%（7月分は速報の80.7%から81.0%に上方改定）と低下した。

拡大した製造業生産は19業種中8業種に減少

業種別にみると、鉱業は前月比▲0.6%（前月同+0.8%）とマイナスに転じた。公益では天然ガスが同+0.0%（同+2.6%）とプラス幅を縮小した一方、電力が同+6.3%（同▲2.4%）とプラスに転じたことで、全体でも同+5.3%（▲1.7%）と増加した。

製造業は拡大した業種数が19業種中8業種（前月15業種）と減少し、前月比▲0.3%と6ヵ月ぶりの減少となった。セクター別にみると、自動車関連の生産は完成車が前月比▲3.7%、自動車部品が同▲2.0%となったため、同▲2.6%減少した。

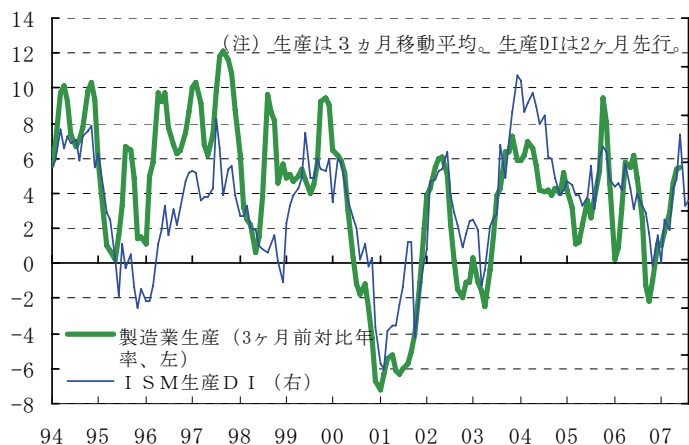
他方、ハイテク関連はコンピューターが前月比+0.6%、通信機器が同+2.1%と加速したものの、半導体が同+0.3%と大幅に減速したことにより、同+0.8%（前月同+3.3%）と拡大ペースが鈍化した。しかし、ハイテク部門は大幅に改定されることが多く、今回も過去の数字が大幅に上方改定されたことから、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+27.3%と前月の+22.5%から加速しモメンタムは非常に強い。また、航空機部門の生産は前月比+0.4%、前年同月比+8.0%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ今後も生産を下支えしよう。住宅建設の大幅な減少の影響を受けている木材の生産、輸入製品との価格競争の激しい繊維等の生産減少は持続している。

生産は2007年後半も堅調に推移

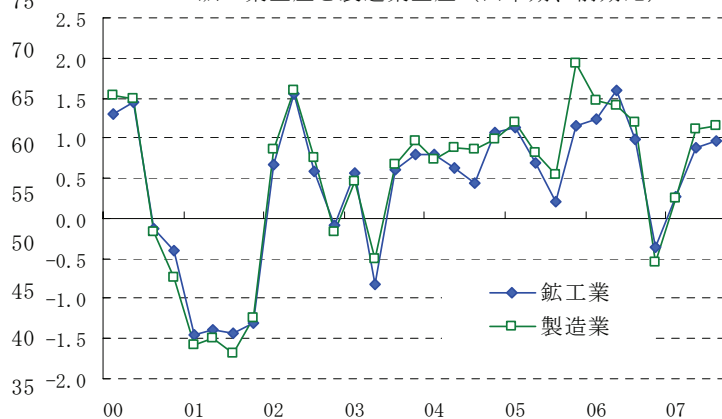
年後半に関しては、住宅部門では在庫調整によって住宅投資の大幅な減少が続こう。このため住宅資産を担保にした資金調達が大幅に減少するものの、所得の拡大、株式関連資産残高の増加等を映じて個人消費は底堅く推移すると予想される。

企業部門では、建設投資が4～6月期に大幅上昇した反動もあり設備投資全体の伸びを抑制する要因となるが、他の設備投資は良好な企業業績、高い稼働率、コスト削減のための情報化投資需要の高まり等から拡大基調が続くと予想される。さらに、政府部門ではインフラ投資の拡大が予定されており、政府支出の高い伸びが続くと見込まれる。また、外部環境をみても世界的に堅調な景気動向によって輸出の好調が続こう。このような中で、在庫も慎重ながら積み増されると予想される。以上のような需要の拡大を背景に、年後半も生産は堅調さを維持する公算が大きい。

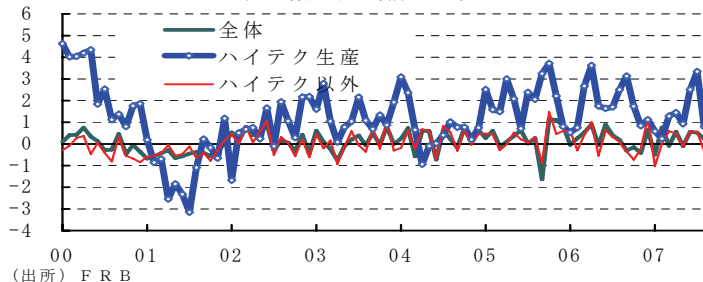
(%) I S M生産判断と製造業生産の推移



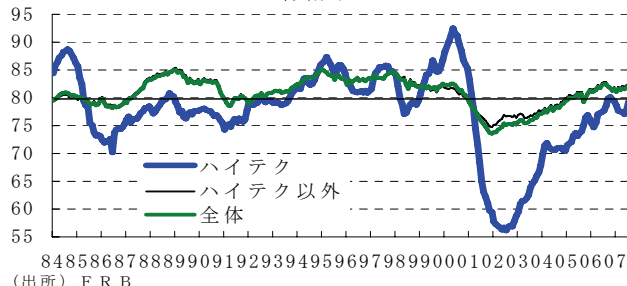
(%) 鉱工業生産と製造業生産 (四半期、前期比)



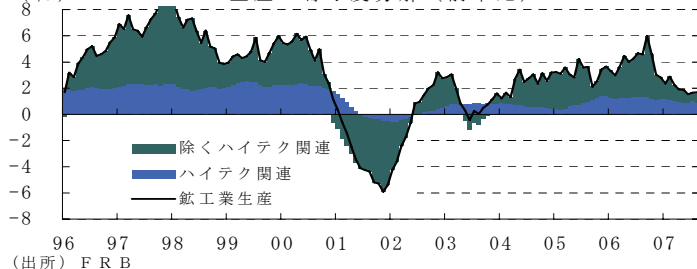
(%) 鉱工業生産 (前月比)



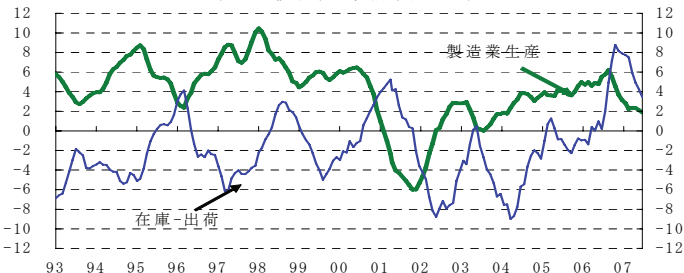
(%) 稼働率



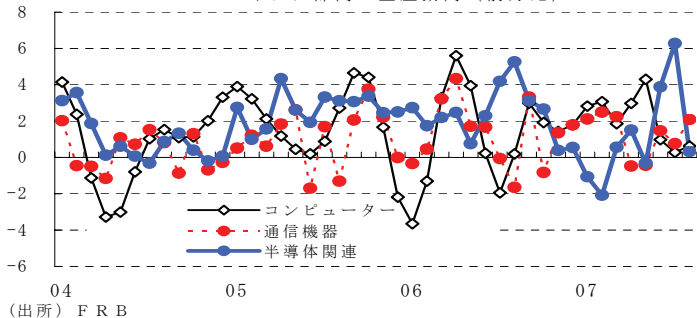
(%) 生産の寄与度分解 (前年比)



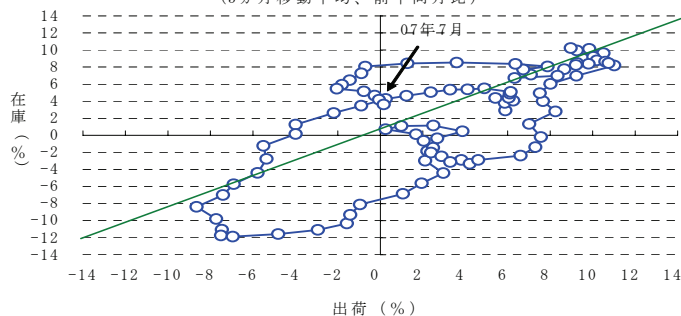
(%) 製造業部門の在庫調整圧力 (在庫-出荷) と生産の推移 (3ヵ月移動平均、前年同月比)



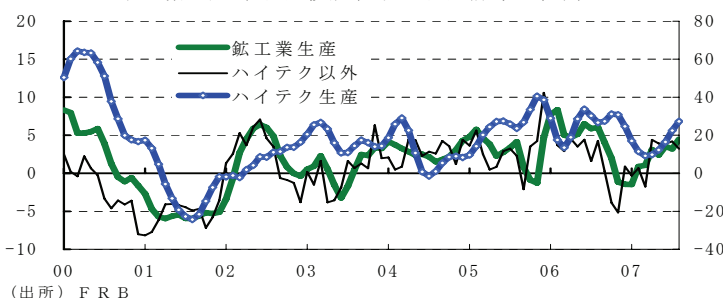
(%) ハイテク部門の生産動向 (前月比)



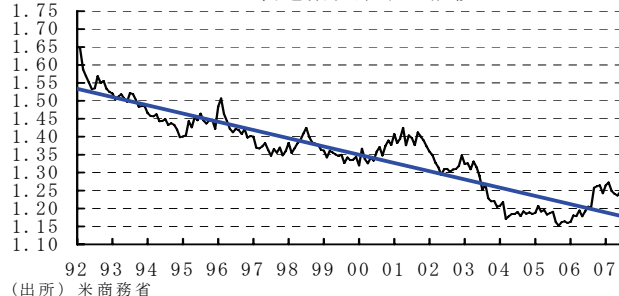
製造業在庫循環図 (3ヵ月移動平均、前年同月比)



(%) 鉱工業生産 (3ヵ月移動平均・3ヶ月前対比年率)



製造業在庫率の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。